

小児がん・AYA世代のがん・希少がん

小児がん

小児がんは、小児がかかる様々ながんの総称です。

血液のがんである白血病やリンパ腫を除き、大人では稀なものばかりです。



☒ 国立がん研究センター
がん情報サービス(小児の方へ)



AYA世代のがん

思春期・若年期(15歳から30歳代)に発生する「がん」をAYA世代(Adolescent and Young Adult) のがんと呼びます。

がんの治療とともに、進学、就職、結婚、出産等様々な社会的変化を伴う年代であることから、年齢に応じた療養環境や人的サポートが必要です。



☒ 国立がん研究センター
がん情報サービス(AYA世代の方へ)



TOPICS

妊よう性温存

がんの治療では、妊娠と関係のないような臓器にがんができた場合でも、生殖機能に影響してしまい、妊娠するための力が弱まったり、失われたりすることがあります。

近年では、将来自分のこどもを持つ可能性を残すために、卵子や精子、受精卵を凍結保存する「妊よう性温存」という選択肢も加わってきました。悩みを1人で抱え込まず、主治医やがん相談支援センターにご相談ください。



☒ 国立がん研究センター
がん情報サービス(妊孕性)



大分県では、がん患者さん等の妊よう性温存療法の治療費を助成しています。詳細は 17 ページへ。



希少がん

希少がんとは、年間発生率が人口10万人あたり6例未満のがんのことです。



☒ 国立がん研究センター
希少がんセンター

